



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 保土谷化学工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4112 URL <http://www.hodogava.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 喜多野 利和

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画部長 (氏名) 富山 裕光

TEL 03-5299-8019

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	25,344	△0.1	△268	—	△418	—	△564	—
25年3月期第3四半期	25,377	△0.6	181	△81.8	△71	—	△827	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,275百万円 (437.7%) 25年3月期第3四半期 237百万円 (△44.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年3月期第3四半期	△7.14	—
25年3月期第3四半期	△10.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	53,841	30,128	51.8
25年3月期	51,765	29,236	53.0

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 27,879百万円 25年3月期 27,456百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年3月期	—	2.00	—	2.00	4.00
26年3月期	—	2.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	35,300	0.3	△200	—	△500	—	△700	—	△8.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 日本パーオキサイド株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 有
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	84,137,261 株	25年3月期	84,137,261 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	5,050,884 株	25年3月期	5,035,247 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	79,096,032 株	25年3月期3Q	79,105,201 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

〔機能性色素セグメント〕

イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要の低迷が継続するも、円安効果もあり、微増となりました。

色素材料事業は、新たに上市したカラートリートメント用染料の寄与があったことに加え、アルミ着色用染料で在庫調整に進展が見られましたが、

小型デジタル家電向けの低調が継続し、前年同期並みとなりました。

有機EL材料事業は、競争の激化が継続し、

加えて、前期に子会社の決算期変更に伴う一時的な増加があったため、大幅な減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、67億53百万円となり、前年同期比7億42百万円(9.9%)の減収となりました。

〔機能性樹脂セグメント〕

樹脂材料事業は、PTG(ウレタン原料)が、堅調に推移し、

また、接着剤も海外での需要が大きく伸びましたが、

剥離材の輸出が減少したため、前年同期並みとなりました。

建築材料事業は、防水工事で、大型物件の獲得が伸び悩みましたが、

材料販売では、ウレタン系防水材分野の新規顧客獲得もあり、前年同期並みとなりました。

特殊化学品事業は、樹脂関連・医薬品・受託分野のいずれも需要が好調で、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、91億69百万円となり、前年同期比3億76百万円(4.3%)の増収となりました。

〔基礎化学品セグメント〕

過酸化水素は、主力の紙パルプ分野で、円安により一部需要が回復し、

また、工業薬品向けも好調に推移しましたが、動物用医薬品の需要が減少したことにより、前年同期並みとなりました。

その他の過酸化水素誘導品は、競争の激化により、微減となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、52億24百万円となり、前年同期比1億5百万円(2.0%)の減収となりました。

〔アグロサイエンスセグメント〕

アグロサイエンス事業は、家庭園芸用除草剤が好調に推移したことにより、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は、28億53百万円となり、

前年同期比2億44百万円(9.4%)の増収となりました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、253億44百万円となりました。

また、損益面では、円安による原燃料価格の高騰などにより、

営業損失2億68百万円、経常損失4億18百万円、四半期純損失は、5億64百万円、となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末(12月末)における資産合計は、538億41百万円となり、

前連結会計年度末(3月末)比20億76百万円の増加となりました。

その主な要因は、投資有価証券の増加18億99百万円、有形固定資産の増加12億34百万円、

受取手形及び売掛金の減少12億84百万円等であります。

負債合計は、237億13百万円となり、前連結会計年度末比11億84百万円の増加となりました。

その主な要因は、支払手形及び買掛金の増加8億41百万円、短期・長期借入金の増加6億66百万円等であります。

純資産合計は、301億28百万円となり、前連結会計年度末比8億92百万円の増加となりました。

その主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加6億64百万円等であります。

以上の結果、自己資本比率は51.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高は、ほぼ前期並みを確保する見込みですが、損益面では、円安による原燃料価格の高騰などの影響を受け、また、その販売価格への転嫁が未だ進んでおらず、厳しい状況が予想されます。以上の状況を鑑み、平成26年3月期の通期連結業績予想を、売上高353億円（前期比0.3%増）、営業損失2億円、経常損失5億円、当期純損失は7億円、に修正いたしました。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成25年7月1日付で、当社を吸収合併存続会社とし、日本パーオキサイド株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行いました。

（連結子会社の事業年度等に関する事項の変更）

海外連結子会社であるSFC Co., Ltd. は、従来、決算日が12月31日であり、同社決算日の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っていましたが、前第3四半期連結会計期間中に、同社が決算日を3月31日に変更いたしました。この変更に伴い、前第3四半期連結累計期間は、平成24年1月1日から平成24年12月31日までの12ヶ月を連結しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

一部の連結子会社は、仕掛品、商品及び製品の評価方法について、従来、移動平均法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、総平均法に変更いたしました。この変更は、当該子会社における基幹システムの再構築を契機に、当社と同様の評価方法を採用し、在庫評価と原価計算を、より効率的に行うことを目的としたものであります。なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

一部の連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、従来、主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。この変更は、連結子会社である日本パーオキサイド株式会社が、平成25年7月1日に当社と合併することを契機に、有形固定資産の使用状況を検討した結果、安定した稼働状況が見込まれるため、定額法を採用することが、より合理的であると判断したものであります。なお、これにより当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失は、1億42百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,408	5,704
受取手形及び売掛金	11,420	10,135
商品及び製品	3,859	4,035
仕掛品	181	286
原材料及び貯蔵品	1,384	1,510
繰延税金資産	129	48
その他	703	623
貸倒引当金	△29	△16
流動資産合計	23,057	22,328
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,781	7,277
土地	11,238	11,248
その他(純額)	4,989	5,718
有形固定資産合計	23,009	24,244
無形固定資産		
のれん	1,404	1,165
その他	483	552
無形固定資産合計	1,888	1,718
投資その他の資産		
投資有価証券	3,287	5,186
長期貸付金	32	66
繰延税金資産	2	1
その他	662	471
貸倒引当金	△174	△174
投資その他の資産合計	3,810	5,551
固定資産合計	28,707	31,513
資産合計	51,765	53,841

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,539	5,380
短期借入金	7,265	6,659
未払法人税等	283	30
引当金	446	205
その他	1,945	1,708
流動負債合計	14,480	13,985
固定負債		
長期借入金	4,768	6,041
繰延税金負債	1,090	1,477
再評価に係る繰延税金負債	1,428	1,428
引当金	217	251
資産除去債務	51	54
その他	491	475
固定負債合計	8,048	9,728
負債合計	22,528	23,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,590	9,589
利益剰余金	5,358	4,477
自己株式	△1,691	△1,694
株主資本合計	24,453	23,569
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	778
繰延ヘッジ損益	△10	△2
土地再評価差額金	2,583	2,583
為替換算調整勘定	315	951
その他の包括利益累計額合計	3,002	4,310
新株予約権	72	45
少数株主持分	1,707	2,202
純資産合計	29,236	30,128
負債純資産合計	51,765	53,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	25,377	25,344
売上原価	17,642	17,697
売上総利益	7,735	7,647
販売費及び一般管理費	7,553	7,915
営業利益又は営業損失(△)	181	△268
営業外収益		
受取利息	30	26
受取配当金	64	96
為替差益	42	115
固定資産賃貸料	61	49
雑収入	100	68
営業外収益合計	299	357
営業外費用		
支払利息	144	126
退職給付費用	230	230
雑損失	176	150
営業外費用合計	551	507
経常損失(△)	△71	△418
特別利益		
固定資産売却益	18	6
投資有価証券売却益	—	12
災害損失引当金戻入額	4	—
新株予約権戻入益	—	40
補助金収入	108	14
受取補償金	—	151
その他	10	—
特別利益合計	142	227
特別損失		
固定資産除却損	10	36
投資有価証券評価損	41	—
災害による損失	0	—
事故関連損失	37	—
本社移転費用	21	—
ゴルフ会員権評価損	0	15
その他	0	0
特別損失合計	111	52
税金等調整前四半期純損失(△)	△40	△243
法人税等	549	197
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△589	△441
少数株主利益	238	123
四半期純損失(△)	△827	△564

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△589	△441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△18	664
繰延ヘッジ損益	3	7
為替換算調整勘定	841	1,044
その他の包括利益合計	826	1,716
四半期包括利益	237	1,275
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△304	743
少数株主に係る四半期包括利益	541	532

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△40	△243
減価償却費	1,338	1,222
のれん償却額	485	454
引当金の増減額(△は減少)	△37	△13
受取利息及び受取配当金	△94	△123
支払利息	144	126
為替差損益(△は益)	△6	△26
有形固定資産売却損益(△は益)	△18	△5
固定資産除却損	6	17
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△12
投資有価証券評価損益(△は益)	41	—
ゴルフ会員権評価損	—	15
受取補償金	—	△151
売上債権の増減額(△は増加)	1,759	1,346
たな卸資産の増減額(△は増加)	△843	△313
仕入債務の増減額(△は減少)	△329	775
その他の資産・負債の増減額	119	162
未払消費税等の増減額(△は減少)	93	△54
その他	12	△55
小計	2,631	3,121
利息及び配当金の受取額	99	125
利息の支払額	△143	△127
補償金の受取額	—	151
損害賠償金の支払額	—	△10
法人税等の支払額	△204	△455
法人税等の還付額	—	65
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,383	2,870
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△60	△76
定期預金の払戻による収入	140	66
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,014	△2,438
有形及び無形固定資産の売却による収入	36	42
資産除去債務の履行による支出	△24	—
投資有価証券の取得による支出	△55	△837
投資有価証券の売却による収入	4	21
関係会社株式の取得による支出	—	△70
貸付けによる支出	△11	△31
貸付金の回収による収入	3	26
差入保証金の差入による支出	△59	△63
差入保証金の回収による収入	253	32
その他	△2	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,788	△3,330

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△144
長期借入れによる収入	1,890	2,430
長期借入金の返済による支出	△1,266	△1,620
社債の償還による支出	△71	—
配当金の支払額	△315	△157
少数株主への配当金の支払額	△88	△5
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△1	△3
リース債務の返済による支出	△19	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	127	477
現金及び現金同等物に係る換算差額	258	255
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△19	272
現金及び現金同等物の期首残高	6,557	5,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,538	5,594

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性色素	機能性樹脂	基礎化学品	アグロ サイエンス	計				
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上高	7,495	8,793	5,330	2,609	24,228	1,148	25,377	—	25,377
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	258	79	115	—	453	551	1,005	△1,005	—
計	7,754	8,872	5,446	2,609	24,682	1,700	26,382	△1,005	25,377
セグメント利益 又は損失(△)	184	33	203	△456	△36	208	172	9	181

(注1) 各セグメントの主な製品

(1)機能性色素・・・有機EL材料、トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、各種染料等

(2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、一般化学工業用基礎原料、
ウレタン系及びセメント系各種建築・土木用材料等

(3)基礎化学品・・・過酸化水素等

(4)アグロサイエンス・・・農薬原体、製剤等

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、倉庫業及び貨物運送取扱業、
研究受託業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性色素	機能性樹脂	基礎化学品	アグロ サイエンス	計				
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上高	6,753	9,169	5,224	2,853	24,001	1,343	25,344	—	25,344
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	119	114	276	—	510	921	1,432	△1,432	—
計	6,872	9,284	5,501	2,853	24,512	2,265	26,777	△1,432	25,344
セグメント利益 又は損失(△)	△807	287	98	△145	△567	285	△281	13	△268

(注1) 各セグメントの主な製品

- (1)機能性色素・・・有機EL材料、トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、各種染料等
(2)機能性樹脂・・・ウレタン原料、一般化学工業用基礎原料、
ウレタン系及びセメント系各種建築・土木用材料等
(3)基礎化学品・・・過酸化水素等
(4)アグロサイエンス・・・農薬原体、製剤等

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、倉庫業及び貨物運送取扱業、研究受託業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機能性色素」セグメントにおいて、海外連結子会社であるSFC Co., Ltd. の株式を、平成25年12月に一部追加取得したことにより、のれんが発生しております。
当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、41百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する情報

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

一部の連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、従来、主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期会計期間より、定額法に変更しております。
この変更は、連結子会社である日本パーオキサイド株式会社が、平成25年7月1日に当社と合併することを契機に、有形固定資産の使用状況を検討した結果、安定した稼働状況が見込まれるため、定額法を採用することが、より合理的であると判断したものであります。
この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「基礎化学品」で1億41百万円、「その他」で1百万円、それぞれ増加しております。